

柴田町文化財調査報告書第9集

上野山古墳群

—令和5年度 発掘調査報告書—

令和6年3月

宮城県 柴田町教育委員会

柴田町文化財調査報告書第9集

上野山古墳群

—令和5年度 発掘調査報告書—

令和6年3月

宮城県 柴田町教育委員会

序 文

豊かな自然に囲まれ、自然災害も少ない柴田町には、推定樹齢 600 年の国指定天然記念物・雨乞のイチョウや、鎌倉時代に刻まれた高さ 2.4m の阿弥陀如来座像をはじめとした富沢磨崖仏群、明治時代より調査が行われ日本の学術史上でも著名な上川名貝塚、また「伊達騒動（寛文事件）」に関わったとされる原田甲斐宗輔が領した船岡要害（船岡館跡）など、多くの歴史遺産があります。こうした文化財は地域の人々によって大切に守り伝えられてきました。また、柴田町で登録される埋蔵文化財包蔵地（遺跡）も 96 箇所のにぼっており、弛みなく続いてきた人々の営みの痕跡が、今もそのまま土中に眠っています。これらの有形・無形の文化財は町民はもとより国民共有の財産であり、次世代への継承は、今を生きる私たちに与えられた重要な責務です。

しかしながら、私たちの生活様式の変化とともに、文化財を取り巻く環境もめまぐるしい変化を遂げています。生活の利便性が向上し、開発行為が増加する一方で、数百年、数千年の間守られてきた埋蔵文化財が、破壊や消滅の危機にさらされています。

このような中、当教育委員会では、開発機関と協議を重ね、多くの方々の理解と協力をいただきながら、文化財の後世への継承に努めているところです。

本書は、令和 5 年度に砂防ダム建設に伴って実施した町史跡上野山古墳群の発掘調査成果について報告するものです。

調査にあたりましては、地権者や地域の皆様、関係機関から多大なるご協力を賜りました。厚く御礼申し上げます。

最後に、この成果が地域の歴史的解明の一助になりますことを願い序といたします。

令和 6 年 3 月

柴田町教育委員会教育長 船迫 邦則

例 言

1. 本書は、宮城県柴田郡柴田町大字西船迫における西船迫沢砂防事業（宮城県大河原土木事務所）に伴い、令和5年度に実施した「上野山古墳群」の発掘調査報告書である。
2. 調査は柴田町教育委員会が担当した。
3. 発掘調査および資料整理・報告書の作成に際しては、以下の方々および機関からご指導・ご助言、ご協力を賜った（敬称略）。
菊地逸夫 宮城県教育委員会
4. 本書に使用した各遺跡の位置図は、国土交通省国土地理院発行の「柴田郡」（1/25,000）の地形図を複製して使用した。
5. 本書で使用した測量原点の座標値は、日本測地系に基づく平面直角座標第X系による。調査区の各測量原点は第Ⅲ章に示した。なお、方位は座標北を表している。
6. 土色の記述にあたっては、『新版 標準土色帳 2018年版』（小山・竹原 2018）を用いている。
7. 遺物図版にはそれぞれスケールを付しているが、縮尺は1/3で掲載している。
8. 本書は、調査を担当した各調査員の協議を経て、畠山未津留（柴田町教育委員会）が執筆・編集した。
9. 本遺跡の調査成果については、遺跡見学会などでその内容の一部を公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、本報告書がこれらに優先する。
10. 発掘調査の記録や出土遺物は、柴田町教育委員会が一括して保管している。

目 次

序 文
例 言
目 次
調査要項

第Ⅰ章 調査に至る経緯	1
第Ⅱ章 遺跡の概要	2
第1節 地理的環境	2
第2節 歴史的環境	2
第Ⅲ章 発掘調査	7
第1節 調査地の位置	7
第2節 確認調査について	7
第3節 本発掘調査の方法と経過	7
第4節 検出遺構	8
第Ⅳ章 総 括	12

引用・参考文献

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

第1図 上野山古墳群の位置	1	第5図 1・2号墳地形図	9
第2図 上野山古墳群と周辺の遺跡	3	第6図 1号墳実測図	10
第3図 上野山古墳群分布図	5	第7図 2号墳実測図	11
第4図 調査区配置図	6	第8図 表採遺物	12

写真図版目次

写真図版1 調査地遠景・1・2号墳の分布状況	13	写真図版4 1号墳検出状況	16
写真図版2 1号墳全景・陰影起伏図	14	写真図版5 2号墳検出状況・表採遺物	17
写真図版3 2号墳全景・陰影起伏図	15		

調 査 要 項

遺 跡 名：上野山古墳群 (8086)

遺跡記号：UK

所 在 地：宮城県柴田郡柴田町大字西船迫地内

調査原因：西船迫沢砂防事業（宮城県大河原土木事務所）

調査主体：柴田町教育委員会

調査担当：柴田町教育委員会生涯学習課

調査期間・面積：

[確 認 調 査] 令和 5 年 (2023) 3 月 10 日

60㎡

[本発掘調査] 令和 5 年 (2023) 4 月 18 日～ 5 月 17 日

42㎡

調 査 員：

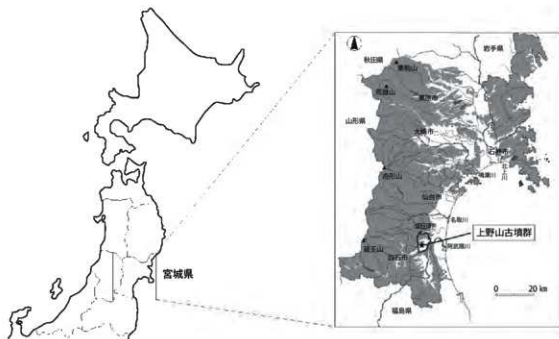
畠山未津留 岡山卓矢 土岐山武 大久保政勝

調査協力：宮城県教育委員会 宮城県大河原土木事務所 株式会社松浦組

第1章 調査に至る経緯

今回の発掘調査は、宮城県柴田郡柴田町大字西船迫地内の西船迫沢砂防事業（宮城県大河原土木事務所）に伴うものである。

令和4年7月、大河原土木事務所より柴田町西部に位置する上野山の南斜面に砂防ダムを建設する計画が寄せられた。計画地が位置する上野山は、そのほぼ全域が埋蔵文化財包蔵地「上野山古墳群」に指定されていることから、大河原土木事務所より埋蔵文化財の関わり協議書が提出された（令和4年8月8日）。この協議に対し、県文化財課から「確認調査」の回答（令和4年8月26日付：文第1421号）が示されたことから、柴田町教育委員会では令和5年2月1日に施工計画地の分布調査を実施した。その際、計画地の沢の東側丘陵上の2箇所で、石塚状に岩石が集まる地点を確認した。確認調査は令和5年3月10日に実施し、両地点で古墳とみられる遺構を確認したため、柴田町教育委員会、宮城県教育委員会、大河原土木事務所の三者で現地保全に向けての協議を行った。しかし、計画される砂防ダム主体部と古墳が近接しており、設計変更が難しいため、記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。本発掘調査は柴田町教育委員会が主体となり、令和5年5月に実施することとなった。



第1図 上野山古墳群の位置

第Ⅱ章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

柴田町は宮城県南部、県庁所在地である仙台市の南方約25kmに位置している(第1図)。町は奥羽山系と阿武隈山系から延びる標高40～260mの山々に囲まれた盆地である。盆地は東流する白石川を境とし、北側の槻木盆地と南側の船岡盆地からなる。両盆地は白石川と阿武隈川により形成された沖積平野で、旧流路沿いには自然堤防が発達し、旧奥州街道と槻木宿、船迫宿の宿場町はこうした微高地上に形成されている。自然堤防の後背地はかつて谷地や沼沢地であったと伝えられる。

白石川北側に広がる槻木盆地とその周辺は、おおむね次の様相を呈している。盆地の北部から西側にかけて、平野は五つの開析谷に姿を変え、富上(とみかみ)、入間田(いりまだ)、葉坂(はざか)、成田(なりた)、船迫(ふなばさま)の各地域に枝分かれする。こうした一帯は、縄文時代前期には海岸線が複雑に入り組む内海であった。平野部に延びる大小の丘陵は、内海に張り出した岬状地形の名残で、露頭には波により浸食された「海食崖(かいしょくがいがい)」が観察できる。縄文時代早期から中期にかけて、これらの丘陵上に集落が営まれ、松崎貝塚、上川名貝塚、中居貝塚、館前貝塚、金谷貝塚、深町貝塚などからなる「槻木貝塚群」が形成された。その後の海退と白石川・阿武隈川による沖積作用により、縄文時代の遺構の多くが埋没したと考えられる。過去には金谷貝塚南側の水田で、地下8mの地点から縄文時代後期と推定される榎3本が出土した例もある。

白石川南側に広がる船岡盆地は、町域の南部にあたり、白石川と阿武隈川の合流点に開けた沖積平野である。水田地帯の標高が7～8mと低く、長年にわたり水害に悩まされてきた。水との関わりを暗示する地名も多く、点在する集落や旧街道は、いずれも白石川の旧流路沿いに形成された標高9～10mの自然堤防上に集中している。

今回の調査対象である上野山古墳群が位置する上野山は、奥羽山脈から派生して南に延びる上野山丘陵の一部である。柴田町の南西部、船岡盆地の西部に位置する。山頂部からは、南方には東流する白石川が形成した沖積平野の船岡盆地が、西方には村田盆地が眺望される。

第2節 歴史的環境

本報告書で取り上げる上野山古墳群の周辺の古墳を見渡すと、白石川とその支流域に集中して分布している。白石川は、蔵王山麓に源を発し、刈田郡七ヶ宿町、白石市、同郡蔵王町を流下したのち、柴田郡に入り、大河原町・柴田町を東流する。その後、柴田町の東南端で阿武隈川に合流し、船岡・槻木盆地を抜けて太平洋に注いでいる。

この白石川水系周辺に分布する古墳を広く俯瞰すると、中流域では白石盆地の東部地域と遠田盆地の南部地域、下流域では村田盆地と大河原町・柴田町の白石川左岸丘陵地域が分布の中心となっている。

もっとも古くから古墳文化が発達したのは、白石川主流から北に入り込んだ村田盆地とみられている。首長墓と推定される大型の前方後円墳などが、村田盆地西側の丘陵に築造されている。



NO	遺跡名	空地	類別	時代	NO	遺跡名	空地	類別	時代	NO	遺跡名	空地	類別	時代
1	野上山野上山古墳群	丘陵	円形	古墳後・奈良	11	入笠遺跡	自然堤防	散布地	古代	21	新井堀六郎群	丘陵斜面	散布地	古墳後
2	平野原遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中～晩	12	野上山跡	丘陵斜面	堀穴墓群	古墳後・奈良	22	野上山跡	丘陵	堀穴	中晩
3	上野遺跡	丘陵斜面	散布地	奈良・平安	13	新近遺跡	丘陵	散布地・城跡	縄文・中世	23	(15)上古墳	丘陵斜面	円形	古墳
4	堀穴遺跡	丘陵斜面	散跡	奈良	14	北沢川遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文後	24	(16)上遺跡	丘陵	散布地	古代
5	尾山丸京跡	丘陵麓	京跡	奈良	15	野上山内堀遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文中・後	25	王塚塚	丘陵斜面	方墳	古墳後
6	新野遺跡	丘陵斜面	集落	縄文中～晩	16	飯元遺跡	丘陵	散布地	縄文中	26	新野山遺跡	丘陵	散布地	縄文中・後・奈良
7	土合堀穴墓群	丘陵	堀穴墓群	古墳・古代	17	野上山跡内堀遺跡	丘陵麓	散布地	縄文中～晩	27	友甲野跡	丘陵	城跡	室町
8	中野遺跡	丘陵麓	集落	縄文中・後・奈良・平安	18	大川原遺跡	沖積平野	散布地	縄文期	28	新井遺跡	丘陵	散布地	奈良・古代
9	野上山跡古堀穴墓群	丘陵斜面	堀穴墓群	奈良	19	川原遺跡	沖積平野	散布地	古墳期	29	新井A遺跡	丘陵	散布地	縄文・奈良・古代
10	大塚遺跡	河川敷	散布地	縄文中・後・平安	20	冠ヶ丘遺跡	丘陵斜面	散布地	縄文早	-	-	-	-	-

第2図 野上山古墳群と周辺の遺跡

千塚山古墳(村田町)は、上野山古墳群の西方2kmに位置する前方後円墳である。形状から前期の古墳と推定されている。その東方300mには同じく前方後円墳である嶋館古墳(大河原町)が位置する。愛宕山古墳(村田町)は上野山古墳群から北西約3.5kmに位置する前方後円墳である。形状から前期の古墳と推定され、白石川水系で最大の規模を有し、円筒埴輪や葺石が確認されている。その西には、愛宕山古墳の陪塚と見られる薬師堂古墳(村田町)がある。方領権現古墳(村田町)は、愛宕山古墳の北方約1kmに位置する前方後円墳である。形状から中期以降の築造と推定される。中山横穴墓群(村田町)は、上野山古墳群から北北西へ約2kmに位置し、頭頂大刀が出土している。このほかにも、龍泉院横穴墓群、古館横穴墓群などが、村田盆地内の小丘陵斜面に点在する。

一方、白石川流域の大河原町・柴田町では、村田盆地に見られるような大型の前方後円墳等は見られず、丘陵斜面に横穴古墳群が造営される。大河原町北西部の白石川の左、右岸の低丘陵には、少数の横穴古墳群が分散して造営されている。他方、柴田町の白石川左岸の丘陵は、浸食が少ない丘陵であるため、多数の横穴古墳群が集中的に造営される。

大河原町北西部の薬師横穴墓群(大河原町)をはじめとする横穴古墳群は、低丘陵地に立地しており、白石川にほぼ並行して分布している。

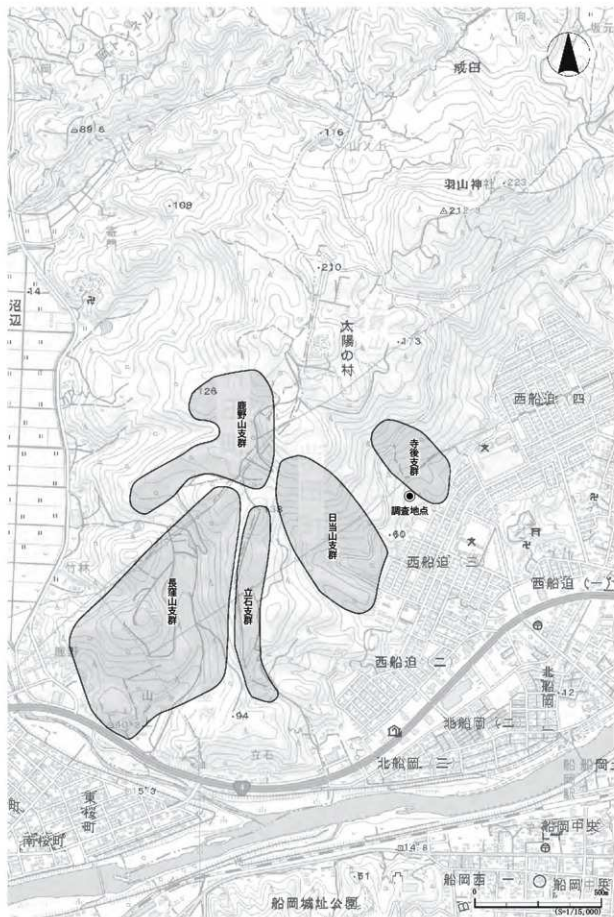
上谷横穴墓群(大河原町)は、白石川右岸の低丘陵に立地する。

森合横穴墓群(柴田町)は、上野山古墳群の寺後支群から東方約500mに位置し、その数は100基を超えると推定される。出土遺物から8～9世紀の造営とみられている。

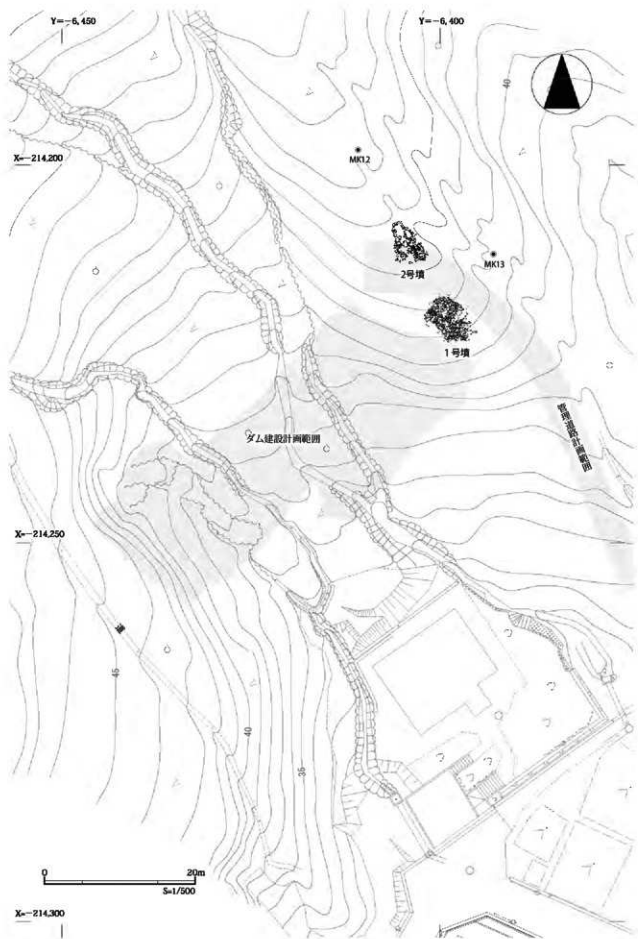
十八津入横穴墓群(柴田町)は、上野山古墳群の寺後支群から東方約1.5kmに位置し、48基が確認されている。

炭釜横穴墓群(柴田町)は、白石川と阿武隈川の合流点北方の丘陵に位置する。50～60基の横穴古墳群で、7～8世紀の造営と推定される。多種にわたる副葬品が出土しているが、特にC地区14号横穴墓から出土した鉄製輪鏝は「板状踏込」を持つ類例の少ない資料とされ、同種の資料が山元町合戦原遺跡のST49横穴墓から出土したことが報告されている(山元町教育委員会2022)。石塚古墳(柴田町)は、船岡館山の西麓にあり、白石川右岸の沖積平野に立地する。奥壁は一枚岩、側壁は凝灰岩の切り石で構築され、古墳時代後期の築造と推定される。

古代の遺構では、上野山古墳群・日当山支群に隣接する風穴遺跡(柴田町)がある。内径約13m、深さ2mの鉢状の竪穴で、中央部から奈良時代の須恵器大甕と焼土が検出されている。これまで生産遺跡とされてきたが、近年になり烽燧(ほうすい)に関わる遺構の可能性も指摘されている(古川2018)。この風穴遺跡の南側300mに兎田瓦窯跡(柴田町)がある。多賀城創建期より若干古いと推定される瓦が出土しているが、供給先が確認されておらず、所在地が未確定の柴田郡衙に供給された可能性も指摘される。北日ノ崎窯跡(村田町)は、千塚山古墳の西側に位置し、奈良時代前半頃の須恵器杯・甕類を焼成している。中屋敷前遺跡(大河原町)は、船岡館山の西麓、沖積平野上に立地している。発掘調査の結果、平安時代中期の寺院跡の存在が確認されており、今後の調査が注目される。鹿野山遺跡(村田町)は上野山古墳群の鹿野山支群西方に位置する。縄文・弥生時代の遺跡とされるが、『沼辺村史』によれば、布目瓦が出土したとの記載もあり、今後の調査が待たれる。



第3図 上野山古墳群分布図



第4図 調査区配置図

第三章 発掘調査

第1節 調査地の位置

上野山古墳群は船岡盆地西部、標高270mの上野山を主峰とする上野山丘陵上に位置し、東西約1.5km、南北約1.4kmの範囲に分布している。立地的には上野山丘陵の山麓から丘陵頂上にかけて築造されている。上野山丘陵の開析支谷に沿って、寺後支群、日当支群、立石支群、長嶺山支群、鹿野山支群の5つの支群から成る（第3図）。これらの各支群内でさらに小支群がいくつかのまとまりで分布する。

今回の調査地点は、上野山丘陵の南東部に位置し寺後支群に隣接する。平成6・7年に実施した上野山古墳群の分布調査では古墳は確認されておらず、未確認の古墳と考えられる。

地形的には、寺後支群が分布する支谷の西隣りに当たる（第3図）。発掘調査地点は上野山丘陵の麓、南東方向にせり出した丘陵上で、住宅地から沢沿いに50mほど上った緩斜面上である（第4図）。古墳はいずれも丘陵尾根の頂上部の比較的平坦な場所に築造されている。標高は丘陵の突端部に位置する1号墳が42～43m、1号墳から7m北側の2号墳が44～45mである。南東方向に眺望が開けており、船岡盆地の西部を一望できる。

第2節 確認調査について

まず初めに、令和5年2月1日に砂防ダム計画地一帯の分布調査を実施した。その際、ダム建設が予定される沢の左岸丘陵上の2箇所で、複数の岩石の一部が地表に露出していることを確認した（写真図版：4-①、5-①）。令和5年3月10日に、この2箇所の確認調査を実施した。

調査地点である尾根一帯は、腐葉土や倒木に覆われており、重機を使ってこれらを除去することから開始した。岩石が地表に露出する場所では、手作業で表土の除去を行った。その結果、両地点共に岩石が石塚状に集中することや、これらの石は丘陵部の地山層に直接置かれ、地下に及ばないことなどを確認した。また、この2箇所以外で遺構を確認することはできなかった。

これらの結果を受け、柴田町教育委員会は、大河原土木事務所と遺構の保存協議を行った。しかし、遺構が砂防ダム本体に隣接し、設計変更が極めて難しく、記録保存の結論に至った。

第3節 本発掘調査の方法と経過

本発掘調査は、確認調査で石塚状の積石を確認した2箇所を対象とした。大河原土木事務所との事前協議を踏まえ、発掘調査は令和5年4月18日に開始した。

発掘調査は1、2号墳を並行して行った。掘削はすべて手作業で行った。

平面図の記録に際しては、トータルステーションを用いた。測量にあたっての基準点（第4図：MK12、MK13）の座標値は以下の通りである。

MK12: X = -214,197.252 Y = -6,410.575 MK13: X = -214,210.872 Y = -6,392.943

断面図等は基本的に縮尺 = 1/20 で作成した。写真撮影には、ミラーレスデジタルカメラ 1 台 (FUJIFILM X-S10 2,610 万画素) を使用した。

発掘調査は 5 月 17 日 (水) の現地機材の撤収をもって完了した。

第 4 節 検出遺構

1 号墳

(1) 検出状況

1 号墳は東西を支谷に挟まれ、南東方向へ延びる丘陵尾根の突端部に位置する。標高は 42 ~ 43m である。分布調査の際には、地表上に数点の岩石が露出する程度で、墳丘状の高まりは認められなかった。周辺には、古墳を構成していたと見られる岩石が散在しており、破壊が著しい。石の配置は表面だけで、内部の深層に及んでいない。

(2) 主体部

発掘の結果、積石の下から東南方向に開口する横穴式石室を確認した。残存するのは石室の基底部のみである。石室平面形は「コ」の字状で、確認できる石室総長は 2.2m、石室幅は奥で 86cm、中央部で 96cm、玄門側は東側壁が失われているため幅は不明である。やや胴張り状を呈していたと推定される。奥壁や門柱を据えるための明確な掘り方や、石室内の床石は確認できなかった。構築材の岩石は、上野山丘陵一帯に分布する橄欖石玄武岩で、加工せずに使用している。石室の前には、10 ~ 20cm 程度の石塊が面的に分布する。寺後支群の調査では、石室を覆う封土表面を割石塊で覆う例が報告されている (柴田町教育委員会 1976・1995)。同様の目的で配置された葺石の可能性もある。周溝は確認できない。

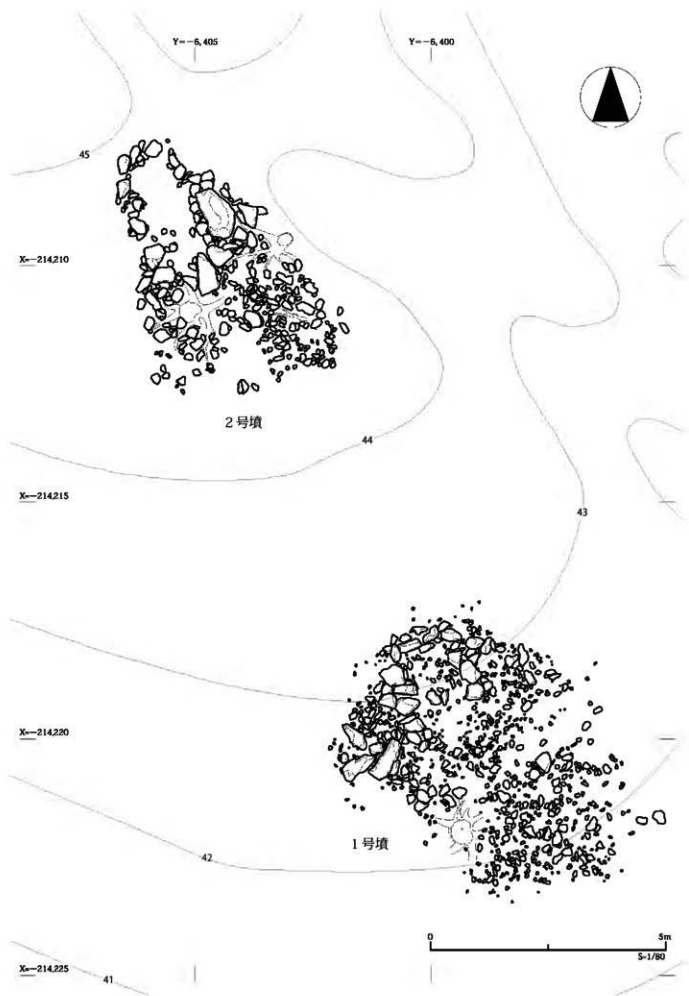
2 号墳

(1) 検出状況

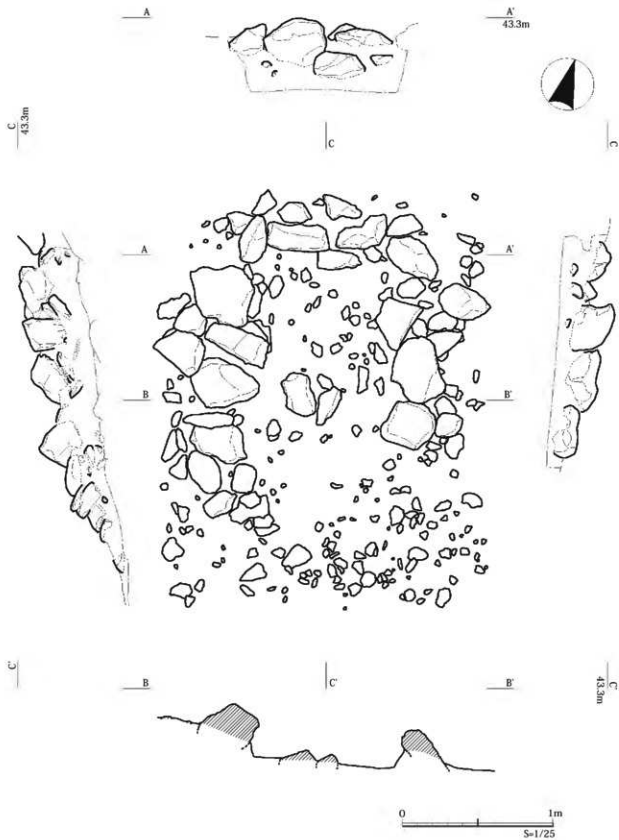
1 号墳より一段高い傾斜面に立地する。標高は 44 ~ 45m である。墳丘は認められない。周辺には、古墳を構成していたと見られる岩石が散在しており、破壊が著しい。石の配置は表面だけで、内部の深層に及んでいない。

(2) 主体部

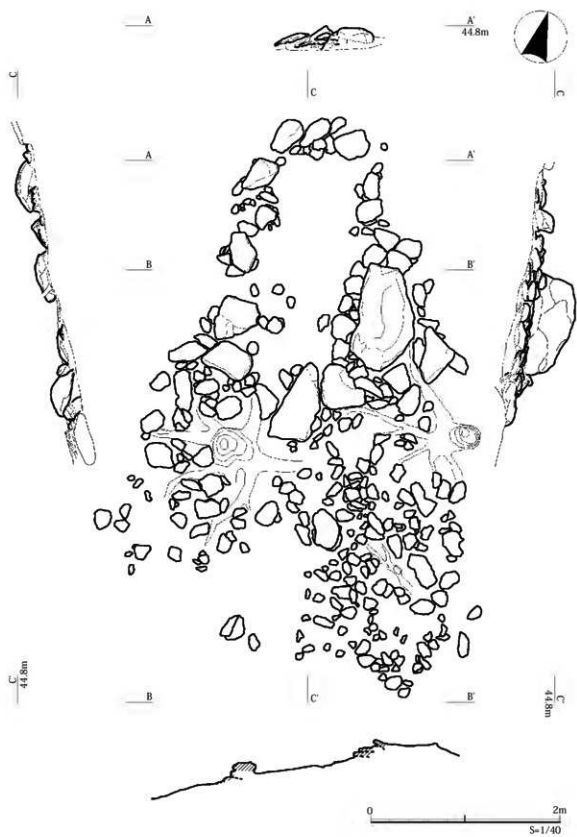
積石の配置から、丘陵の東南方向に開口する横穴式石室と推定される。残存するのは石室の基底部のみである。石室平面形は長方形で、確認できる石室の長さは 3.4m、石室幅は奥で 96cm、中央部で 1m、玄門部で 80cm である。胴張り状を呈していたと推定される。石材は一帯に分布する橄欖石玄武岩を、加工せずに使用している。石室内では明確な掘り方や床石等は確認できなかった。また、石室の南側に長辺 80cm、短辺 40cm、厚さ 15cm 以上の三角形の石があり、位置的に閉塞石の可能性も残る。石室の前には 10 ~ 20cm 程度の石塊が面的に分布しており、外側に広がることから、封土を覆っていた葺石の可能性もある。周溝は確認できない。石室の北東側に幅 1m、高さ 60cm の岩が立っているが、埋没部分の大きさから自然石の露頭と考えられる。



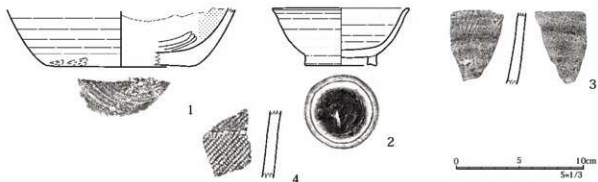
第5图 1・2号墳地形图



第6图 1号墳実測図



第7图 2号填实测图



No	器種	層	法量 (cm)			特徴	写真	登録
			口径	底径	高さ			
1	土師器 環	表採	—	09.0	—	〔外面〕ロクローケズリ 〔内面〕ヘラミガキ→黒色地層 〔底面〕回転糸切り	5-1	1
2	須恵器 高台付環	表採	—	6.0	4.6	〔外面〕ロクロナデ 〔内面〕ロクロナデ 現在1/2	5-2	2
3	須恵器 甕	表採	—	—	—	〔外面〕ロクロナデ 〔内面〕ロクロナデ	5-3	3
4	出土土器 漆跡	表採	—	—	—	縄文 (LR) 貯土に1~3mm程の石粒を僅かに含む 器厚7mm	5-4	4

第8図 表採遺物

第IV章 総括

本調査の対象となった1号墳、2号墳ともに、今回新たに確認した古墳である。保存状態が悪く、確認できたのはいずれも横式石室の基底部に限られ、遺構に伴う出土遺物はなかった。そのため、古墳の築造年代を絞り込むには至らなかった。

しかしながら、調査地点が寺後支群に隣接し、標高や立地地形、古墳の規模などに類似点が多いことや、1号墳付近で内・外面に段を持たない内黒土師器環が表採されるなど、上野山古墳群の築造年代とされる7世紀後半から8世紀初頭の時期に矛盾しない。

今回の遺構確認を受け、本調査地点の丘陵尾根上の踏査を実施したが、周辺には大小多数の橄欖石玄武岩が分布しており、古墳と断定できるものは確認できなかった。しかし、平成6・7年の寺後支群の分布調査では、支谷の左右岸の全長400m、幅150mの範囲に32基(A群)の古墳が確認され、その中には墳丘を持たない箱式石棺も含まれることから、今回の調査地点となった支谷沿いでも、未確認の古墳が存在するものと推定される。

引用・参考文献

- 柴田町教育委員会 1976『船迫ニュータウン地内遺跡調査報告』柴田町文化財報告書 第8集
- 柴田町教育委員会 1979『石塚古墳』柴田町文化財調査報告書
- 柴田町・村田町・大河原町共同推進事業協議会 1995『上野山古墳群分布調査報告書』
- 柴田町史編纂委員会 1983『柴田町史 資料編Ⅰ・Ⅱ』
- 柴田町史編纂委員会 1989『柴田町史 通史編Ⅰ・Ⅱ』
- 古川一明 2018『研究紀要 19』東北歴史博物館
- 東北学院大学考古学研究所 1970『温故』第六号
- 宮城県教育委員会 1985『色麻町 香ノ木遺跡 色麻古墳群』宮城県文化財調査報告書 第103集
- 山元町教育委員会 2022『合戦原遺跡』山元町文化財調査報告書 第22集



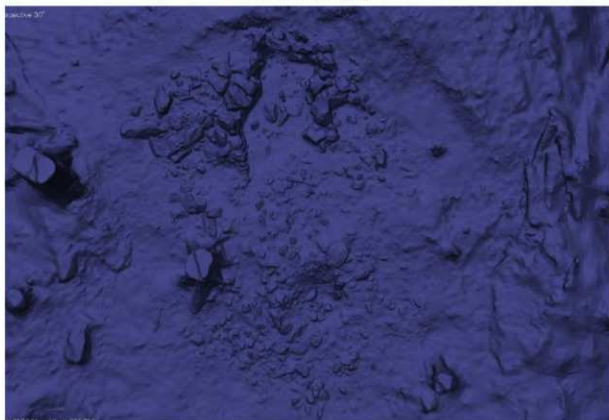
①. 調査地遠景（南東から）



②. 1号墳（下）・2号墳（上）の分布状況（上が北）



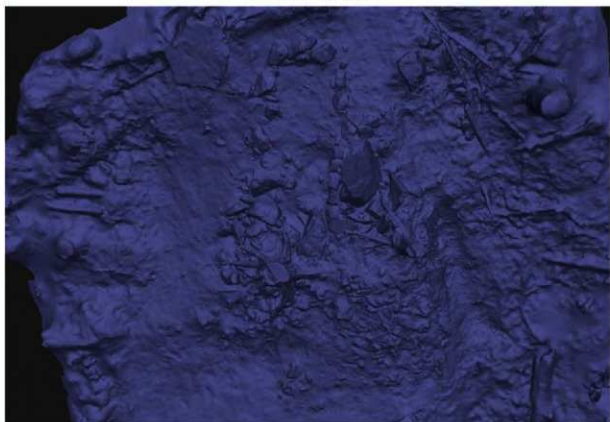
①. 1号墳 全景 (上が北)



②. 1号墳 陰影起伏図 (上が北)



①. 2号墳 全景 (上が北)



②. 2号墳 陰影起伏図 (上が北)



①. 1号墳 調査前状況 (西から)



②. 1号墳 検出状況 (上が東)



③. 1号墳 検出状況 (南東から)



④. 1号墳 検出状況 (東から)



⑤. 1号墳 西側壁 基底部 (東から)



⑥. 1号墳 奥壁 基底部 (南から)



⑦. 1号墳 東側壁 基底部 (西から)



⑧. 1号墳 南面 石塊分布状況 (南西から)



①. 2号墳 調査前状況 (西から)



②. 2号墳 検出状況 (西から)



③. 2号墳 検出状況 (上が北)



④. 2号墳 完掘状況 (北から)



⑤. 2号墳 東側壁 基底部 (西から)



⑥. 2号墳 南面 石塊検出状況 (南から)



1(B-1)



2(B-2)



3(B-3)



4(B-4)

【表採遺物】 1: 上師器 環 2: 須恵器 高台付環 3: 須恵器 甕 4: 縄文土器 深鉢

*縮尺= 1/3 *括弧内は本文図版番号

写真図版 5

報告書抄録

ふりがな	うわのやまこふんぐん-れいわごねんど はっくつちようさほうこくしょー							
書名	上野山古墳群							
副書名	一令和5年度 発掘調査報告書一							
シリーズ名	柴田町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第9集							
編著者名	畠山未津留							
編集機関	柴田町教育委員会							
所在地	〒989-1692 宮城県柴田郡柴田町船岡中央2丁目3-45 TEL: 0224-55-2111 FAX: 0224-55-4172							
発行年月日	2024年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
うわのやまこふんぐん 上野山古墳群	みやぎけんしほらこん 宮城県柴田郡 しほらまじりおおし 柴田町大字 しほらまじりおおし 西船迫地内	04323	8086	38度 4分 12秒	140度 45分 36秒	20230310 20230418 ～ 20230517	確認調査 60 本発掘調査 42	砂防ダム建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上野山古墳群	群集墳	古墳時代末期 奈良・平安時代	横穴式石室	なし				
要約	<p>発掘調査の結果、2基の古墳を確認し、いずれも横穴式石室の基底部を検出した。隣接する寺後支群の古墳と規模や立地条件が類似しており、7世紀後半から8世紀初頭の可能性が高い。これまで古墳が確認されていない丘陵であり、周辺に未発見の古墳がある可能性が高い。</p>							

柴田町文化財調査報告書第9集

上野山古墳群

・令和5年度 発掘調査報告書・

令和6年3月18日印刷

令和6年3月19日発行

発行 柴田町教育委員会

宮城県柴田郡柴田町船岡中央2丁目3-45

印刷 株式会社 東北プリント

仙台市青葉区立町24-24
